

觀 測 部 月 報

Monthly Report, Observing Section, O.A. A.

★

東 亞 天 文 協 會

★流星課報告 METEORS (121—122) 課長 小槇孝二郎(K. Komaki, President)

對米英戰始つてこゝに一月、皇軍の戦果の大なること、實に古今無比である。全世界は文字通り大禍亂の下に立つに至つたが、この時に於ても天體觀測の理學陣は決してゆるがせにすべきでない。流星觀測者の如きも、交戦國にあつては、多數を戦場に送らるべきであることは云ふまでもない。従つて銃後にある吾人も、觀測成績の低下せざる様、一層の努力と奮闘を致すべきである。

× × × ×

一月に活動する主な流星群は下記の通りである。Jan. & Feb. Meteors:

活 動 期 Period	輻 射 點		附 近 の 星	性 状
	赤經 (α)	赤緯 (δ)		
1 ^日 — 5 ^日	230°	+52°	龍 座 Dra	速, 顯著
中 旬	220	+13	牧夫 座 Boo	迅
17 ^日 — 25 ^日	143	+38	山猫 座 Lyn	迅
下 旬	213	+52	牧夫北部 Boo	甚 迅

以上の中、最初の龍座流星群（又は四分儀流星群）は、今度は月の邪魔で觀測には都合が悪い。しかし極大の3~4日には大光度のものもある筈であるから見のがしてはならない。本年（昭和16年）、この群の活動期に、獵犬座 β 附近に輻射點を有つ流星群が、川人、古屋、江川、小槇等の諸氏によつて認められた。又、江川氏は元日の早曉大熊座 η 星附近に輻射點を有する1流星群を見られた。共に注意を促し度い。猶、年末から一月上旬に、双子座 λ 附近を輻射點とする流星群が、東京天文臺の古畑氏によつて指摘されてゐる。（天文月報34卷7號125頁）これも注意の要があらう。

二月は一年中で最も流星の少い月である。月初の牧夫座流星群（輻射點 $\alpha = 213^\circ$, $\delta = +52^\circ$ ）は一月末より繼續せるものである。

× × × ×

十月のオリオン群はかねての計畫に基いて觀測された。結果は未だ出揃はないが、吉井、古屋兩氏及小槇の結果は先づ例年並と云つたところ、1937, 1938,

1939年と同程度か？（1936年は極めて豊富であつた）吉井、小嶺の間に同一流星を10個程認め得た。October Orionids were well observed, the activity being normal and similar to that in 1937, 1938, & 1939 (1936 was rich.) Ko & Ys made 10 simultaneous observations.

× × × ×

昨年七月及八月の観測結果は近くブレテンに發表される筈である。The observations of meteors in July and August 1941 will be soon published in the "Bulletin".

★遊星面課報告 PLANETS

課長 伊達英太郎(E. Date, President)

火星最接近を境として、天候は好轉し、十月は好晴に恵まれて報告数は増加した。が、十一月に入るとシーイングが悪化するので、良シーイングは期待出来ない。土星木星（天王星も）が火星に續いて登場して來たが、未だ火星の好演技に阻まれて見向かれない形であるが、**土星**は環が最大限に開いて環の構造を観察するに適してゐるし、**木星**は、北赤道帯が非常に複雑な構造を示してゐるから、火星が終れば、季節的の障害はあるが、土、木星に移つていたゞき度い。**天王星**も見出し易い位置にあるから未見の方は觀望されれば良いだらう。

十月末迄の火星見取圖受領總數は、**保積氏**……48枚、**青木氏**……8枚、**渡邊恒夫氏**（大阪市電氣科學館、25種カセグレン反射使用）……2枚、**伊達課長**（兵庫、26種反射使用）……5枚となつてゐる。

他に、**保積氏**から木星見取圖を3枚、東京、**富田弘一郎氏**から土星見取圖1枚受領し、觀測部長**木邊氏**より火、木、土星寫眞（32種カセ・ニュートン焦點にて撮影のもの）數枚受領す。

火星は、其後南極冠は益々縮少の一路をたどつて來たが、十月末には略ぼ Minimum に達したらしく、縮少は一時停止の形を取つてゐる。北極冠は、十月始には明瞭に像の下端（天體望遠鏡裡）に銀青色に光つており、正に火星世界が冬の季節に入つた事を見せてゐる。南極冠の溶解に伴つて、南半球の模様は著しく濃度及綠色度を強くし、**大シルチス**附近は特に著しい。表面個々の變化については綜合報告に記載するが、**バンドーラ海峡**が、1939年に比し大分濃く見え出し、**ソリス湖**が勾玉形（1926年度に酷似す）を示し、**スライファ**博士に依つて指示された**ゴメル灣**は、今回も大きい形狀を示してゐる。

一方、北半球の模様は冬枯れを如實に示して極めて淡く、北半球特有の細い運河も殆んど觀測されない状態にある。（以上1941—11—3）

對衝を過ぎた火星は、日1日と遠ざかりつゝあるが、夏至を過ぎて秋景色を迎へ様とする南半球は、表面模様の濃度も極大を越して、ボツボツ退色の時期

に入りつゝある。南極冠も最小限度に迄縮少はしたが、恐らくこの程度で、Minimum を過して、南極の冬を迎へるであらう。

スケッチは十一月末に至り俄然激増し、新しく、而も仲々熱心にして且有望の少壯観測家が、關東及臺北に生れた事は、當課として喜ばしい事で、今後の御精進を切望するものである。十一月末の見取圖受領數は下記の通りである。

保積善太郎氏 (東京市)	16輝反射	83枚
瀧田 正俊氏 (銚子市)	15輝反射	14枚
青木 章氏 (大阪市)	15輝反射	8枚
渡邊 恒夫氏 ()	25輝反射(カセグレン式)	2枚
竹内 潤氏 ()	15輝反射	2枚
蔡 章 猷氏 (臺北市)	10輝屈折	8枚
賴 武揚氏 ()	7.5反射及10輝屈折	11枚
木邊觀測部長 (滋賀縣)	31輝反射	5枚
	(他=火、土、木星寫眞多數)	
伊 達 課 長 (兵庫縣)	26輝反射	6枚

以上合計 139枚で、今後益々増加の豫定で、十二月末の協同観測終了と同時に、他の有力な観測者からも相當の報告あるものと期待してゐる。

かく、有力な観測者の簇出は、今回の對衝を、病魔の爲に観測を阻まれた小生として非常に力強く感ずる次第で、又、餘力を木、土星にそゝいでいたゞき度い事を切願するものである。

(16—11—29)

★黃道光誤 ZODIACAL LIGHTS.

横濱の醍醐正氏より1941年十一月11日、12日及び14日の對日照の報告を受領した。土星の近くであるが、非常に正確に観測されてゐる。又、戦線にある本田實氏から去る十一月9日の西天に始めて黃道光を観測し、引き續き同15日と21日との西天黃道光観測の報告があつた。又、十一月20日、25日、26日の各曉天に立派な黃道光を観測されたとの報告があつた。

尚ほ、本田氏は去十一月20日に清澄の夜空に於いて、プレヤデス團の中に27ケの星を認めたとの報告があつた。蓋し今までのレコードである。(山本)

★彗星線 COMETS 第二シグスマン・ワハマン彗星(1935III)は今1942年二月に近日點を通過するが、去る十一月14日、東京の廣瀬秀雄氏によつて“ふたご座”に發見された。光度14m. 即ち1941fである。(進)

★太陽線 SUN その後、沓掛七二氏(長野縣)と古屋四郎氏(甲府市)とより九月分の黒點報告を受領いたしました。新しく松隈孝祐氏と加藤裕成氏の御参加を歓迎いたします。十一月以來、天候はよくありません、皆様の一層の御努力を切望いたします。

太陽黑點相對數報告 (1941年十月) Sun-spot Relative Nos., October 1941.

觀測者 Obs. (觀測地)	蔡章 蘇 (臺北市)	坂上 務 (鹿兒島市)	松隈 孝祐 (福岡縣)	前橋榮太郎 (大阪市)	竹内 潤 (大阪市)	寺崎 明 (大阪市)	廣瀬 辨三 (大阪市)	木邊 成磨 (滋賀縣)	金田伊三吉 (石川縣)	大石 辰次 (靜岡縣)	岩城 馨 (靜岡縣)	香掛 七二 (長野縣)	古屋 四郎 (甲府市)	富田弘一郎 (東京市)	高杉 重春 (東京市)	保積善太郎 (東京市)	山田 勇次 (東京市)	飯高 正義 (東京市)	高橋 利繁 (北海道)
口徑 mm	55	42	58	27	32	18	38	75	55	55	30	102	30	40	32	75	75	40	33
倍率 ×	64	64	64	60	50	74	50	60	64	64	50	75	44	32	64	64	70	53	35
方法	P	P		D	D	D	D	D	DP	D	D	DP	D	D	DP	D	D	D	D
1	43	R		R				R	R	C	R	R	R	C	R	R	R	C	11
2	37	M		M		25	37	M	C	20	M	C	M	47	12	43	36	26	R
3	R	M		M		25	40	47	13	18	35	C	R	29	M	30	M	17	12
4	R	M				26	33	43	14	14	C	18	M	19	13	27	C	M	C
5	33	M		19	61	17	31	M	17	21	46	C	54	35	16	33	C	26	17
6	41	M		15		13		32	15	16	46	C	50	18	14	27	C	28	15
7	64	65		40		23		38	39	39	44	C	53	42	36	49	C	38	C
8	15	67		M	41	42	38	M	39	C	46	47	53	M	56	M	C	M	37
9	47	M		33	44	35	43	40	38	31	68	46	67	M	39	44	M	30	38
10	C	M	60	M	57	36	42	M	44	46	60	49	65	41	37	48	M	11	41
11	35	M	69	35	42	34	41	50	41	42	69	49	77	46	37	43	M	45	37
12	48	M	36	27		22	42	57	40	48	53	C	78	44	41	59	M	M	R
13	R	M	C	M		23		30	39	R	C	C	C	46	C	30	M	M	22
14	C	M	C	30	44	M	41	48	43	C	59	57	65	49	C	28	M	M	28
15	C	M	C	M		M		M	43	77	70	69	63	57	M	59	M	56	40
16	C		83	43	31	28	41	51	47	50	83	16	88	61	42	45	26	44	42
17	M		84	46		29		77	56	60	82	84	79	28	49	58	38	58	37
18	R		R	R		27		R	C	C	R	R	77	R	R	C	M	R	R
19	R	81	73	62		M		77	62	M	110	74	105	53	54	63	M	82	C
20	80		M	34		M	59	56	55	74	82	C	103	56	27	59	M	60	R
21	59		76	34		M	33	35	43	38	47	C	M	M	26	36	M	37	27
22	46		98	35	38	25	33	M	35	48	M	C	C	57	M	35	M	M	29
23	81		94	89		25	61	71	56	56	50	58	90	60	63	59	M	39	54
24	59		76	50		24	53	M	64	73	92	45	113	56	37	55	M	52	51
25	55		74	56		M	55	M	52	49	60	46	92	42	47	41	M	53	52
26	R	67	C	49		M		52	51	41	C	C	93	49	51	42	M	57	R
27	C		M	33		M	52	43	51	33	59	49	95	53	35	43	M	M	49
28	72		63	41		33	55	44	54	52	37	51	86	29	24	45	M	38	M
29	68		M	45	45	M	44	M	44	47	38	C	71	27	M	33	M	39	25
30	M	47	62	37	46	38	43	50	42	29	43	M	71	46	24	36	M	41	25
31	50	45	64	M		37	46	53	45	35	40	56	66	47	13	32	M	37	25
日數 Days	18	6	14	21	10	21	22	20	28	25	24	16	24	26	22	29	3	22	22
平均 Mean	54	62	72	38	44	28	44	50	42	38	59	53	77	44	34	44	33	43	32

略符號については第246號(十二月號)を見よ。 For the abbreviations, see No. 246.

太陽黑點相對數報告 (1941年十一月) Sun-Spot Relative Nos., November 1941.

觀測者 Obs. (觀測地)	蔡章 (臺北市)	坂上 (鹿兒島市)	岡部(外2) (鹿兒島市)	松隈孝祐 (福岡縣)	前橋榮太郎 (大坂市)	竹内潤 (大坂市)	廣瀬辨三 (大坂市)	木邊成磨 (滋賀縣)	金田伊三吉 (石川縣)	加藤裕成 (名古屋市)	大石辰次 (靜岡縣)	岩城馨 (靜岡縣)	沓掛七二 (長野縣)	富田弘一郎 (東京市)	高杉重春 (東京市)	保積善太郎 (東京市)	山田勇次 (東京市)	飯高正義 (東京市)	高橋利繁 (北海道)
	Ss	Su	T.M.	E.M.	Tu	B.H.	Kb	Kd	H.K.	Oi	K.I.	Kk	Tm	Ti	Hs	Yy	M.I.	Tt	
口徑 mm	55	42	150	58	27	32	38	75	55	75	55	30	102	40	32	75	75	40	33
倍率 ×	64	64	71	64	60	50	50	60	64	40	64	50	75	32	64	64	80	58	35
方法	P	P	P		D	D	D	D	DP	P	D	D	DP	DP	D	D	D	D	D
1	M	M	69	61	38			M	41	38	R	C	R	C	C	31	44	R	C
2	M	M	C	66	53			38	35	39	35	42	52	C	C	38	C	M	30
3	M	M	112	67	M		70	50	65	49	44	71	77	40	39	48	47	44	41
4	69	M	83	63	C			55	45	C	C	C	C	C	C	C	C	R	M
5	39	M	51	M	44		51	M	42	51	41	46	42	M	38	42	37	37	38
6	27	M	31	M	0		35	13	13	13	27	23	26	M	M	24	C	11	14
7	C	C	0	0	0	0	0	0	0	0	12	M	0	0	0	0	0	0	0
8	R	R	R	C	0			C	0	C	0	C	0	0	0	0	C	C	0
9	R	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	C	C	0	0	0	C	C	0
10	C	M	0	0	0	0	11	0	0	0	C	C	C	C	C	0	C	C	0
11	0	M	0	0	M		0	M	0	0	C	0	0	0	C	0	C	0	0
12	R	M	C	C	M		11	M	0	0	0	11	22	0	0	0	C	0	0
13	R	M	40	R	R			M	C	C	C	C	C	R	R	C	C	R	C
14	33	M	46	51	46			M	30	45	C	48	R	27	M	35	R	31	M
15	39	M	37	50	M		42	M	29	46	34	M	44	26	27	31	30	32	26
16	38	48	47	M	34	25		35	30	46	37	57	46	28	28	35	33	32	26
17	M	M	66	45	M		46	29	30	45	31	47	43	28	25	34	M	29	31
18	24	M	C	C	M		40	M	28	46	33	48	45	M	M	30	27	30	27
19	R	M	53	C	R	28		M	32	R	R	R	C	R	R	R	R	R	R
20	R	M	43	C	20			M	R	M	30	C	C	C	C	26	C	13	S
21	R	M	R	M	C			M	R	R		R	R	R	R	S	R	M	C
22	36	43	51	M	C			35	R	24		C	C	R	R	C	R	M	23
23	74	C	R	M	C			R	R	25	26	C	C	28	25	27	C	C	26
24	M	M	95	C	C			R	C	C		R	C	R	R	R	C	C	51
25	R	M	C	R	C	89		C	R	C		R	C	R	R	C	C	R	
26	96	M	111	R	59		101	R	84	73		78	105	63	M	78	R	85	
27	M	M	C	C	C		77	R	87	69	66	C	75	67	M	64	R	68	
28	R	M	C	C	R			M	R	C		R	R	R	R	R	R	R	
29	88	M	139	60	66			89	R	M		M	C	C	C	C	C	C	62
30	88	106	97	C	83	91	95	102	78	84		C	C	68	64	70	66	C	75
日數 Days	13	4	21	12	14	7	14	12	21	20	15	11	14	13	11	21	8	15	19
平均 Mean	51	66	56	34	32	35	41	37	32	35	28	43	41	30	22	30	35	29	25

上旬から中旬にかけて久しぶりに無黒點の日がつづいた。